

労働災害の約8割は、停車時に発生

停車中の危険は、すぐ側に

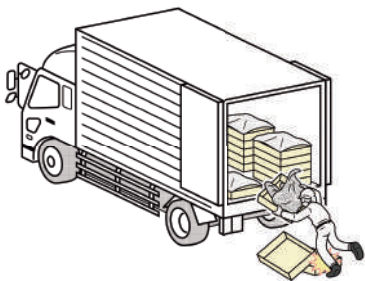
空箱につまずき、転倒しそうになったヒヤリ・ハット事例編

労働災害は、いつ発生するか分かりません。しかし、事前の対策によりその多くは防止できるでしょう。今回は、荷台に荷物を積み込もうとした際、空箱につまずき、転倒しそうになったヒヤリ・ハット事例および対策を紹介します。

災害例

空箱につまずき転倒しそうになった

作業者は積み込みを行うため、パンが入った番重（プラスチックのケース）を両手で持ち、パン工房から駐車場に向かっていった。番重を荷台に乗せる際、荷台足元に置かれていた空の番重に気づかず、つまずき転倒しそうになった。



原因

- 番重は幅が広いので、足元が見えにくかった
- 作業通路の動線上に空の番重が放置されていた
- 作業通路の安全確認が十分ではなかった

対策

- たとえ作業で使用する（作業に必要な）物であっても、作業通路に放置しない
- 作業開始前には作業通路（動線上）の安全を確認する
- 番重を何段も重ねて運搬する際は、前方の視界を確保できる段数にする

労災防止の基本に立ち返り、5S活動を

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」に「しつけ」を加えた、5S活動。この活動は、職場を単にきれいにするという表面的なことではなく、職場の安全と作業者の健康を守り、そして生産性を向上させるために行うのが目的です。労災防止の基本に立ち返り、改めて実践をお願いします。

整理：必要なものと不要なものを区分し、不要、不急なものを取り除くこと。

整頓：必要なものを決められた場所に、決められた量だけ、いつでも使える状態で容易に取り出せるようにしておくこと。

清掃：ゴミやほこりを取り除き、隅々まで油や溶剤などをきれいに清掃し、仕事をやりやすく問題点に分かるようにすること。

清潔：職場や機械などを清掃し、きれいな状態を維持すること、作業者自身も身の回りを汚れない状態にしておくこと。

しつけ：決めたこと、教わったことを必ず守るように指導すること。

